

「池田分かち合いの会・ひかり」

発行責任者：植村ヨシ子

編集：京井幹男

発行日 2022年7月

No. 5

豊中夢基金 杉山春講演会「自死は向き合える」 主催：池田分かち合いの会・ひかり

★日時：2022年6月18日（土）午後2時 ★場所：豊中商工会議所 ★参加費：無料
自死、虐待を扱っておられる。NHK朝の番組にも出演。

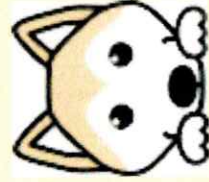
著書 『自死は、向き合える』 遺族を支える，社会で防ぐ（岩波ブックレット）

『ネグレクト―育児放棄 真奈ちゃんはなぜ死んだか』（小学館ノンフィクション賞受賞）

『児童虐待から考える』 社会は家族に何を強いてきたか（朝日新聞出版）

新聞づくりの趣旨

- 参加者が発見、気づいた体験を書くことにより認識が深められる。
- 当事者同士の絆が深まる。
- 差別・偏見への理解をたかめる。
→生の声を伝えることにより社会認識を深めていく。



池田分かち合いの会・ひかり in 豊中（定例会・毎月第二土曜日）
池田分かち合いの会・ひかり in 池田（定例会・毎月第三土曜日）

いずれも午後2時から・事前申込み不要・参加費無料

問い合わせ先：植村ヨシ子（代表） 電話080-3858-2954

みんなで話そう



生命（いのち）

ある内科医が言った。「ドアの向こうに亡きひとがいる」。ドアの向こうは浄土。こちらは娑婆。ドアが彼岸。生死（しよじ）の問題は「表裏一体」。「生まれたから死がある。死は特別なことではない」。

ある参加者は、その言葉に気持ちが『らく』になったと語られた。心願に気づき発見をしたと感謝されていた。

いのちとは、多くの人に支えられ生かされ育まれていく。「生きたかった」のに「生きられなかった」。それしか選肢がなかった。

「自責の念」にさいなまれ後悔ばかりで答えはでない。

人は「支え合い」ご縁をたいてつに生かされている。「楽しかったときのこと」「没頭できるもの」に身をゆだねる。

命日は「誕生日」であり花に囲まれ会話をしている。

み仏は、「大丈夫だよ、私はここにいるよ」と呼びかけ見守り続けている。遺された者が「明るく楽しく生きること」を喜び後押ししてくれている。

絶対的な者、不動の者に「まかせろ」ことが「生かされている慶び」につながる。

いのちは「つながり」であり「つながっていく」ものである。

よしこ